

## 富士紀行（66） 国際色豊かな富士学校（H13/4/21 記）

富士紀行35号で、富士眺望の湯について紹介したが、その中の11番目の「すその美人の湯、ヘルシーパーク裾野」が、4月21日オープンした。場所は裾野市須山3408番地である。

東富士演習場内を横断する須山国道（469号）と裾野市道の交差点から南下した地点にモダンな建物が見える筈だ。パンフによれば、「富士山の懷に抱かれて自然の息吹を感じつつ、くつろぎの一時をお楽しみ下さい、運動目的、アメニティ目的、リラクゼーション目的、休息目的の4つのゾーンがある」と言う。

富士学校は、昭和56年以降、合わせて3ヶ国からの留学生を受け入れている。当初は、シンガポール、次いで、パキスタン、近年では平成7年から大韓民国からの留学生が各職種の幹部上級課程に入校している。3ヶ国からの受け入れ留学生は延べ40名余りである。最近の韓国の留学生は、自国の上級課程を修了した者で、階級は大尉が殆どである。日本語能力はかなりと言っていだろう。

彼等は、日本の富士学校に入校することを熱望し、約半年間、概ね同世代の幹部連中と一緒に学んでいる。中には、家族を呼び寄せる者もあり、約半年の勉強滞在間に日本文化や人情に親しむことになる。このような地道な努力が大韓民国と我が国の友好の絆を深めるのであろう。共に学ぶ日本の学生も彼等から色々な刺激を受けていることは間違いない。真の友達を作って日韓双方で活躍してくれれば、武力組織相互の信頼は強固なものになる。そうなって欲しいものだ。

近年の信頼醸成措置の進展により、外国からの軍人の富士学校訪問が激増している。一様に日本のシンボルでもある富士山に驚嘆する。平成9年度以降平成12年度末までの外国軍の高官の来校状況は、延べ13ヶ国、約40回に上る。これにセミナーでの参加を含めれば更に増えよう。中国やベトナムの国防大臣、列国の参謀総長や軍司令官級の方が多数訪れ、ブリーフィング受け、陸自の装備品見学、部隊訓練評価隊の研修等を行っている。今後も高官来校は増えることはあっても減ることは無かろう。国際的な信頼醸成に富士学校が幾ばくでも裨益できるならば、有り難いことだ。

何故、富士学校への訪問が増えているのか、私見であるが、東京から比較的近いこと（外国の高官はまず防衛庁・陸幕等をまず訪問するのが通例）、世界に冠たる富士・箱根国立公園であり、景勝の地であり、外国人ならば一度は訪れたき地との思いが強いこと、更に、富士学校は普通科・特科・機甲科の陸上自衛隊の主導職種のメッカであり、陸自の40%の幹部が学ぶところであり、普・特・機の総合された学校として世界的に注目されていること、更には、最新の装備が配置されているので、富士学校を見ると陸自のかなりの部分を知りうる可能性があること等に因るのだろう。

● 日本富士山協会の発足を喜ぶ！

13/4/18 付の「日韓静岡」によれば、静岡、山梨両県の富士山に関する78団体が大同団結して、「日本富士山協会」が発足した。発足の母体となったのは、静岡県の富士山交流推進協議会（庄司清和会長）と富士五湖観光連盟（堀内光一郎会長）である。今年度の事業として、まず、富士山に関する自然、文化、歴史、産業など古代から現代に至る情報を収集して、多様なメディア機関を通じて世界に発信する。平行して新規会員も募集する。また、協会が懸念している世界の誘客を推進するための交通、施設、案内、交流の立ち後れを解消するため、この一体化整備を検討する。四国のお遍路に倣って、富士山周辺の名所・旧跡をお札所に指定する案も承認されたという。ウォーキングフェスティバルも昨年同様、企画された。今年（H13）10月、一週ビッグウォークが予定されている。（新聞記事から要点略記）（関連：富士紀行28号）  
当協会の発足を喜ぶと共に発展を祈念するものである。